

令和6年度 粟ノ保小学校だより

令和6年12月23日 NO.15



ひまわり

羽咋市立粟ノ保小学校
校長 田中 利弘

スローガン【すべては 子どもたちの 輝く未来のために】

◇2学期終業式：よい年末・年始を迎えよう◇

令和6年も残りわずかとなりました。明日は、終業式です。毎月行事や取り組みがあり、長いと思った2学期が終了します。授業や行事のたびに、一人ひとりが一生懸命に取り組んでいました。がんばっていたことをほめてあげてほしいと思います。ほめていただくと、子どもたちは次への意欲につながります。自己肯定感も高まります。

さて、子どもたちにとって楽しい冬休みが始まります。クリスマス・年末・年始と楽しいことがたくさんある冬休みです。夜おそくまでおきている日が増え、規則正しい生活を送ることが難しいかもしれません。しかし、大切な子どもたちの身体と脳の健康を守るために、(特別な日を除いて)規則正しい生活を送ることができるよう、声かけをお願いします!「早寝早起き朝ごはん」を守れるように、よろしくお願いします。

冬休み明け1月9日(木)は、「羽咋市学力調査」が実施されます。冬休み中に復習をするこ
とで、基礎学力が定着します。楽しさの中にもけじめをつけて、自己管理できる子になれるように
関心をもって子供の様子を見て、言葉かけをお願いします。学年からの冬休み中の課題もです。
タブレットでの課題(AIドリル、4年以上は電子図書等)も進んで取り組みましょう。

お子さんへの声かけをお願いします!



1. 「はやく 寝ようね」・・・年末年始は難しいですが、午後10時(低学年9時)
2. 「おはよう。〇ちゃん」・・・朝の元気なあいさつ
3. 「きょうはどうだった」・・・夕食や寝る前の会話を。どんな一日を過ごしたの。
4. 「がんばったね」・・・お手伝い、きちんと勉強した時はほめて、認めてください。
5. 「ありがとう」・・・子どものやる気は、親の一言で生まれます。



冬季休業中の緊急連絡先について

12月30日(月)～1月3日(金)は年末年始のため学校閉庁日です。
期間中、学校職員は不在です。緊急且つ特別の用件がある場合は、粟ノ保小学校
(22-0243)へ電話を入れていただくと担当者へ転送されます。

裏面あります

◇2学期通知表渡し◇ 12/25(水)



「何のための成績渡しか？」それは、子どもの成長を願ってのものです。できていないことを叱るものでは決してないということです。成長していくときには、今ある我が子の姿を知ることが大事です。現状を見つめ、更に伸びるためにはどうしたらいいのかを考えなければいけませんね。我が子を注意して、叱れば直るかといったら、そんな甘いものではないことはお分かりだと思います。大人でもそうだと思います。我が子の「通知書」を見て、どこが伸びているか（努力・成長しているか）をまず、褒めてください。そして、気になる点は、「具体的にどうしようか？」「何から始める？」「できるかな？」など我が子と一緒に共に考えてあげてほしいと思います。一つ一つの小さなステップの積み重ねです。できたら褒める。このことが大事です。我が子の成長のための一つの「資料」として、「目標・めあて」を話し合い、冬休み・3学期につながる会話を願っています。

◇校長の雑感◇

先日、ある講演会（演題：「キャリア教育を活かしての学校と地域との連携と協働」）に出席しました。興味深い内容もありましたので紹介します。

- 「今後10年～20年で、日本の労働人口の**49%**がAIやロボット等で代替可能になる。（野村総合研究所マイケルAオズボーン准教授らの共同研究）
- 「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が、**107歳**より長く生きる」ことになる。（カリフォルニア大学とドイツのマックス・プランク研究所が調査）
- 「2011年に米国の小学校に入学した子ども達の**65%**は、大学卒業後今は存在していない職業に就く」。（ニューヨーク市立大大学院教授キャシー・デビットソン）

内容が、すべてそうなるとも限りませんが、講演内容の資料として紹介しますね。

日本だけでなく、世界における社会そのものが大きく変わりそうです。どのような社会が訪れようとも、活力ある社会の構築には、関わる人との出会いが重要です。子ども達の自己肯定感を高めていくことが何より大切です。

自己肯定感の醸成に向けては、自分が育ったプロセス（家族やふるさと）に誇りを持たせることが必要です。子ども達が羽咋のよさを感じて、「こんな仕事や役割があるんだな」「こんなすごい人が羽咋にいるんだな」という発見、「わたしも将来こうして石川・羽咋に貢献できたらいいな」という芽を持たせるために、ぜひとも「カッコいい姿ではなく、一生懸命な大人の姿」を見せることが大事であると講師は熱弁を振るっておりました。（石川・羽咋は私が追記）

子どもたちは、自己有用感を実感することで、自己肯定感が醸成されます。だからこそ、異年齢・異世代交流が大事なんです。上の学年が下の学年のお世話をする、楽しませる等の活動が有効です。また、小学生が祖父・祖母（高齢者）を楽しませる。これらの活動を通して、子どもは「役に立った」「私がしたことによって周りが喜んでくれた」と実感し自己肯定感が高まるわけです。

粟ノ保小に当てはめると、異学年交流（委員会・クラブ・縦割り班活動）や地域の先生（読み聞かせ・見守り隊・クラブ）から学ぶことで「一生懸命な大人の姿」を日頃より見ております。

先日の収穫祭でも話しましたが、学校は地域の城です。そして、地域は学校の応援団でもあります。まさにコミュニティスクールになっています。